



東京新都心ロータリークラブ
【 やってみよう！ ロータリー 】

Shintoshin Weekly

〒160-0023 新宿区西新宿2-7-2 ハイアットリージェンシー 東京11階

TEL : 03-3340-3555 FAX : 03-3340-3554

HP : <http://www.tokyo-shintoshin-rc.org> E-mail : shintoshin-rc@par.odn.ne.jp

会長 佐原目朗 幹事 平岡直記 創立 : 1988年9月21日

「高原からのボサノヴァ演奏」

ボサノヴァ系シンガーソングライター ナナマリ 氏

暑かった2024年の夏、標高1000mを超える八ヶ岳も、昼間はクーラーが必要となる暑さでした。とは言え、甲府よりもマイナス5℃、さらに夜ともなれば窓を開けたまま寝るのは少し肌寒いくらいになります。地球温暖化の影響と在宅ワークの普及もあり、ここ最近はずいぶん移住者も増えてきました。

しかし縄文時代に遡れば、地球の平均気温は今よりもさらに2℃も高く、八ヶ岳は多くの縄文人が暮らしていたという歴史もあります。

今日は、私が影響を大きく受けたボサノヴァの父アントニオ カルロス ジョビンの名曲と、私のオリジナル曲をいくつか演奏したいと思います。

ボサノヴァは1950年代の後半にブラジルで生まれました。情熱的なサンバのリズムを取り入れる一方で、それとは対照的なクールな歌唱と繊細なハーモニーが合わさり、

当時のブラジルの中産階級の人々の間で流行しました。「Bossa Nova」=「新しいこぶ」つまりニューウェーブのような言葉の意味があります。

同時に、アメリカのジャズサクソ奏者スタン・ゲッツが取り上げたことで、ボサノヴァは一気に世界に広まりました（アルバム「ゲッツ・ジルベルト」1964年）。日本においては、映画「黒いオルフェ(1959)」の挿入歌「カーニバルの朝」や、アストラッド・ジルベルトが歌う「イパネマの娘」などが流行しました。

その後、ボサノヴァは世界中の音楽家に影響を与え、現代のポピュラーミュージックのあらゆる場面で聴こえてくるようになりました。かくいう私もボサノヴァの要素を取り入れて作曲をしているひとりです。

本日は、まだまだ残暑厳しい9月の東京で、新宿-5℃を目指して『高原からのボサノヴァ』をお贈りしたいと思っております。

プロフィール

ナナマリ (Vocal & Guitar, Composer)

標高約1000m、山梨と長野の県境にある八ヶ岳の森に暮らすボサノヴァ系シンガーソングライター。

高校生の時にギターと出会い、ロックやポップスバンドを組んで音楽活動をスタート。独学で音楽理論を学び、TV番組や舞台、メジャーアーティストなどへの楽曲提供を行う。

2004年に山梨へ移住後はブラジル音楽(ボサノヴァ)に傾倒し、ギター弾き語りスタイルで山梨、長野、都内～関西方面でもライブ活動を行う。2008年1st Album「雨粒」をはじめ、カバー作品を含む計5枚のCDを全国リリース。2022年ピアニストのgee2wo氏（元RCサクセション）とユニット「7g classic's」を結成し、2枚のアルバムをリリース。

ナナマリホームページ <https://nanamari.com/>



2024年9月18日(水) 第1606回例会

「高原からのボサノヴァ演奏」
ボサノヴァ系シンガーソングライター ナナマリ 氏
(紹介者 加藤 和詳 会員)

次回のプログラム

2024年10月2日(水) 第1607回例会

「異文化コミュニケーションとは何か」
桜美林大学 名誉教授 荒木 晶子 氏
(紹介者 吉田 寿人 会員)